# 第１回　北浦水質改善計画検討会　議事概要

## １．日時

令和２年 12 月 17 日（水）13：30～15：20

## ２．場所

霞ケ浦環境科学センター（多目的ホール）からのＷＥＢ会議

## ３．出席者（順不同）

（委員）

筑波大学名誉教授　福島 武彦　（座長）
茨城大学農学部　地域総合農学科　教授　黒田 久雄
茨城大学　地球・地域環境共創機構　流域圏環境部門　助教　増永 英治
東京工業大学　環境・社会理工学院　教授　木内 豪
国立研究開発法人　国立環境研究所　気候変動適応センター
　気候変動影響観測・監視研究室　室長　西廣 淳
国立研究開発法人　国立環境研究所　地域環境研究センター
　環境技術システム研究室　主任研究員　冨岡 典子
国立研究開発法人　国立環境研究所　生物・生態系環境研究センター
　生物多様性資源保全研究推進室　主任研究員　松崎 慎一郎
国立研究開発法人　土木研究所　水環境研究グループ　水質チーム　上席研究員　山下 洋正
（欠席：国立研究開発法人　土木研究所　水環境研究グループ
　河川生態チーム　上席研究員　（兼 自然共生研究センター長）　中村 圭吾）

（行政委員）

茨城県　県民生活環境部　環境対策課　課長　江幡 一弘
独立行政法人　水資源機構　利根川下流総合管理所　所長　仲道 貴士
国土交通省　関東地方整備局　霞ヶ浦河川事務所　所長　須藤 純一

（事務局）

国土交通省　関東地方整備局　霞ヶ浦河川事務所

## ４．議事

北浦における水質改善対策について
巴川の流入負荷抑制対策について

## ５．議事要旨

### ■北浦における水質改善対策について

・湖内対策として、湖内に堆積した汚濁物の除去などの対策も考えていく必要はあるが、北浦の流域対策が進んでいない現状では、対策をしても効果が持続しないことが考えられるので、当面の対策としては、流域対策を進めてもらいながら、これ以上北浦が汚濁しないための対策（ウェットランド）を行い、流域対策が進展した段階では、湖内の底泥対策や湖水の流動促進を検

討する長期的な計画を考えていきたい。
・ウェットランドを中心に考えていきたいということで国は提案しているが、効果、コスト、環境配慮の検討において、知見が不足しているため今後の調査が必要である。その上で有効な処理システムとしてのウェットランドをどのように作っていけばいいか議論を進めていく。
・短期対策はウェットランドのみでいいのか。流入河川・水路の水質処理や底泥からのリンの溶出対策なども組み合わせた複合的な対策は考えられないのか。
・流域自治体においても同様な取り組みがあれば積極的に連携や支援を進めてほしい。
・検討スケジュールでは令和９年度に工事完了となっているので、湖沼水質保全計画第８期（令和３年度から令和７年度）において、湖内対策としてどのような形で打ち出すことが出来るか検討してほしい。

**■巴川の流入負荷抑制対策ついて**
・施設（仕切堤）設置により懸念されるリスク（土砂堆積による治水、生物生息環境、樋門・樋管や漁船運行等への影響、景観、利用など）について、今後、調査や検討により影響を評価し、対応を検討していく。
・既存のウェットランド施設のデータを分析して、設置方法や運用方法の検討に活かしたほうがよい。
・水理・濁質の挙動把握は、数値解析手法も取り入れて検討したほうがよい。
・ウェットランドの整備については、調査によってネガティブな側面が分かってきた場合、仕切堤を設置しない案を含めて大幅な見直しをできるようにしたほうがよい。
・ウェットランドを継続して維持していくためにも、ウェットランドの機能を水質改善に限らず多機能化することが重要である。

—以上—

※ウェットランド（湖内湖浄化法）
河口に人工内湖を設置することによって流入河川の汚濁負荷制御を図る手法

（会議の様子）

会議は、会場（座長、委員２名、事務局）からの WEB 会議方式により開催しました。会場では、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、除菌等による感染対策を実施し、開催しました。